こすど公民館報

発行所　小須戸町公民館
発行人　間野良知
発行日　毎月15日
一部5円
印刷所　昭栄堂印刷所

余りにも多い県政上の問題

四十七年度県政モニターの立場から

矢代田 星田金雄

四十七年度県政モニターに委嘱され、一年間がすぎました。

モニター会議や随時通信の中から、私が一番関心のあった問題の一部を紹介したいと思います。

四十七年七月に第一回四十八年三月に第二回のモニター会議が開かれ、出席約五十名と県知事を始め部長・課長計十二名が出席しました。

環境問題についての意見交換、その他県政全般に関する意見交換など約二時間半に渉り、熱心な論議がかわされました。

中でも環境問題については、県民がもっとも関心があり、自然環境が破壊されつつある実体が目に見えるようでした。

弥彦山のスカイラインや、妙高有料道路の建設計画については、多くの反対意見が出されましたが、特に弥彦の二の舞をふまぬよう要望がありました。

公害問題では養豚・騒音・ダンプ等、私達住民の生活に関係の深い問題が論議をよびました。

交通問題では、道路標識や信号機の増設、歩道については、もう少し歩き易い構造にするよう意見や要望がつぎ〳〵と出され、予定の時間はまたたく間に過ぎてしまいました。

随時通信では教育、地域開発、交通安全、選挙、福祉衛生、公害、道路整備等四十近い問題が提出されました。

私が一番注目した問題は次のことでした。

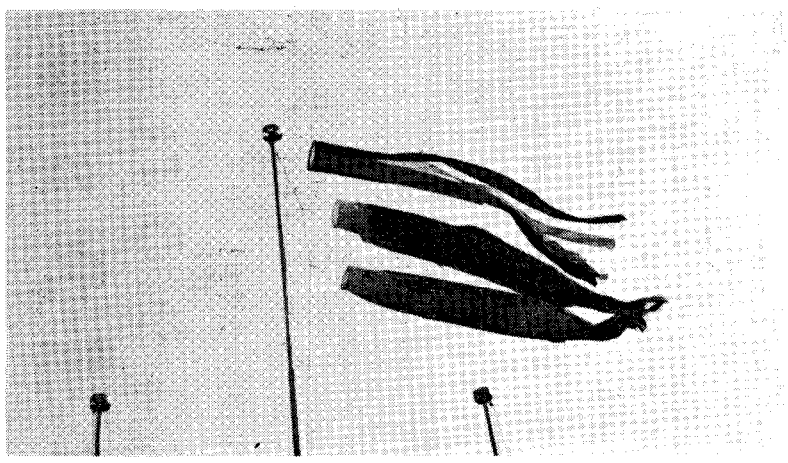
問：新潟市山ノ下に対岸貿易の担い手となる人材を養成するための、特殊高校を新設してほしい。商取引き及び業務処理にあたる人材の養成が急務である。

答：新潟市が対岸貿易の拠点として今後の発展が期待されている現在、新設についてのご意見は貴重なものであり、新しい考え方には敬意を表するものである。

このような特殊の単独高校となると、なかなか困難な問題がある。

なお貿易科の設置については、他県の状況や教育課程の問題等を十分に調査研究し検討する。

私も昨年度県政モニター会議等に出席して、あまりにも問題が多いことと、私自信の関心の無さと勉強不足を反省しながら、小須戸町においてもっと〳〵自然環境の整備や地域開発に力を入れ恵まれた環境と住みよい小須戸町を建設するよう切望したいものです。



五月のうた

いまい ゆうすけ

〃やねよりたかいこいのぼり〃
さつきの青いそらに
子どもらのこえがひびく
若葉の山を背に
しなやかに
のびのびと
おおらかに
さつきの鯉は
さつきの空を泳ぐ
矢車が
さわやかな音を立てて
こどもらと歌いつづける

社会教育団体役員決まる

公民館関係の役員が決まりましたのでお知らせいたします。

◎運営審議委員
一号委員　中野 桑男
〃　山名 正平
〃　高橋 哲也
〃　桜井 猛
二号委員　松沢 キヨ
〃　佐藤 克雄
〃　村山 祐吉
〃　佐藤 五郎
〃　平間 福治
〃　本多 縦
〃　五十田清一
〃　梅津英五郎
〃　大貫巳三郎
三号委員　土屋 安二
〃　萱森 朝夫
〃　小柳 篤信
〃　坂井きみ江
〃　五十嵐義応
〃　渡辺 欣二
〃　加藤 米二
〃　新保分館より
〃　矢代田分館より
◎分館長
小須戸分館長　佐藤 正雄
横水　〃　木村敬三郎
新保　〃　川瀬 弘一
矢代田　〃

社会教育関係団体の役員は次のとおりです。

連合老人会長　佐藤五郎
〃　婦人会長　佐沢キヨ
〃　青年団長　佐藤克雄
体育協会長　渡辺欣二

今年もよろしくお願いいたします。

勤労青年学級新役員決まる

小須戸町勤労青年学級では、五月二日に今年度の新しい顔ぶれと、役員がそろって年間事業等の計画を決めました。

学級長　吉田 林哉
〃　井上三重三
副　五十嵐止樹
〃　野崎 和幸
会計　中山 利一
幹事　田沢 作幸
〃　竹内 晋輔
監査

なお今後入学ご希望の人がありましたら、どうぞ公民館へお申込み願います。お待ちしております。

（自治会）

さなぎ

〃広報紙にもの申す〃

町民の声も聞いてください

先日の新潟日報に、小須戸の広報紙についての記事がいろいろ掲載されておりましたが、今までの広報紙は、どうも上意下達のきらいがあったのを、今度は下意上達の道を開くと言う。

これは当然のことで、町民から広く意見を求め建設的な意見は紙上に公開して、積極的に行政面に反映してもらいたいものである。

この四月から「町だより」と「公民館報」の二本立てで発行され「町だより」はお知らせ記事が中心のようだが、みんなに読まれる新聞とするには、例えば家庭欄とか趣味の欄のようなものを設け、今月号のように「竹の子の見わけ方」のように毎月の野菜や果物などの見分け方、栄養や調理法、その他季節々々の草花や、つり便り等も載せたらどうかと思う。

また「公民館報」はみんなの新聞として、できるだけ町民の意見を載せてもらいたいと思う。そのため編集関係者は苦労も多いと思われるが、積極的な広聴活動が展開できないものか。ご一考を願いたい。

「町だより」も「公民館報」も町民に読まれないのでは三文の価値もないことは、よくご存じのことと思う。

これは数年前のことだったが、ある町で買物をしたら、その包み紙が前日発行の、その町の広報紙であったことを覚えているが、そのようなことのないよう町民に読まれて文字どおり親しまれる広報になるよう、関係者に希望するものである。

堀野魚人

弥彦山へ登った時

五年一組　田中良子

私たちの目的地は、弥彦スカイラインの一番高い所からバスをおり、歩いて弥彦山頂、一番山のてっぺんまで登りました。

山頂まで登る時は、何段も階段がありました。私は始め（こんなぐらいかんたんに登れる）と思っていたのです。

が登ってみてそれどころではありませんでした。はじめからものすごくつかれました。それは階段ばかりあり、階段と階段との間が、とても高いので十段くらい登ると、もうつかれてしまいました。

私は、一番後ろにいたので、二組の丸山じゅん子さんに「ここ登るとつかれるねえ」とわたしが言うと、じゅん子さんが「こんげの登っていると明日、足がいたくて歩かんねなるや」と言いました。わたしは（ほんとにそのとおりら）と思いました。

真保先生は、とちゅうでへたばって、階段にへなへなと、こしをくずすようにすわって「ああ、なんぎ、なんぎ」と言いながら歩いていきました。

はじめは、一番後ろに私がいたのに、みんなはこの急な階段を登ってつかれたのか、私は後ろから五番目くらいにきました。みんなは大きく口をあけて「ハアハア、ハアハア」と肩で息をしながら、なかなか進まない足をいっしょうけんめいに動かしていました。

私は、ひとりごとに、「そんなにまだ歩いていないのになんぎなあ」とぶつぶつ言いながら、みんなのあとになって歩いていました。

私は「もうこんなに歩いたから、頂上へもうすぐにつくなあ」と思っていました。が、なかなか頂上に着きません。

それからしばらくたって、やっと鳥居が見えてきました。

山頂近くからのながめは、すばらしきれいでした。よく晴れて、海はまっ青で目にしみるようでした。海の向うには、佐渡ケ島がくっきりとうかんで見えました。「春は、かすみが立ってめったに見えないのに、今日はめずらしくよく佐渡が見えるなあ」うしろの方では、先生の話声が聞こえてきました。

私の足は、棒のようになっていました。とてもおなかがすいて「グウグウ」としきりにおなかから音がしてきました。

はっと頂上を見ると、もう二人ばかし山頂についている人がいました。頂上から、大きく手をふっているのが見えます。私も負けてなるものかといっしょうけんめいに足を動かし、やっとの思いで頂上につきました。

頂上へ着いてから私はまっさきにけしきがよく見えるよい場所をえらびました。

みんなで中食をたべました。山頂のオニギリは大変おいしかった。

しばらくして、武田さんが食べ終ったのでゴミをすてようとしました。ゴミばこは二メートルぐらいはなれていました。武田さんは歩かずなげたら、もう少しのところでおちてしまったので、大きな声をだしてわらいました。それからまた何分かがすぎて、山頂での楽しい思い出を、のこしておりていきました。

楽しい修学旅行でした。

長寿大学ご案内

五月二十日（日）
公民館で一時より
書道クラブ

五月二十三日（水）
老人憩いの家一時
民謡クラブ

五月二十五日（金）
老人憩いの家一時
全体学習「老人健康」
講師　富山保健婦

毎月十五日、老人憩いの家にて　囲碁将棋クラブ

六月三日（日）午前八時
ハイキングクラブで
矢代田林道―ゴマ堂山―下山―田上のコースで実施します。参加ください

続小須戸風土記

鎌倉新田の名主

柏大治

往古には鎌倉新田を真崎と称し、また天ケ沢新田を長峯と称してともに田上村湯川地区であったと思われる。

明暦二年（一六五六）に鎌倉は新田として湯川から分離し一村を興した。当時の「きもいり」は不明であるが、名主もかなりの出入りがあったようで元禄十五年名主源七、享保三年名主太兵衛この時溝口文献にも記録されている事件が起こり世間を驚ろかした。

一応、名主を年代順に見ると次のようになる。

記

元禄十五年　名主　源七
与頭助十郎
享保三年　名主太兵衛
享保三年　名主吉沢九右衛門
延享四年　名主吉沢九右衛門
新津組庄屋代役をした。
寛延三年　名主吉沢九右衛門
宝暦五年　名主吉沢九右衛門
寛政七年名主　太　吉
享和三年名主吉沢九十郎
文化五年名主吉沢九十郎
名主吉沢周平次
天保四年　名主吉沢九右衛門

嘉永五年　名主大関寛右衛門
嘉永五年名主吉沢勝十郎

休役

覚

一、其組鎌倉新田休役名主勝十郎の義　近年極難渋に罷成去る子年（嘉永五年）より当寅年（安政元年）迄三ヶ年休役願之通申付候処追送くていまだ借財片付不申趣を以猶又来卯年より辰年迄弐ヶ年休役仕度旨願之通申付置候間其旨可申達候　以上

寅十二月　郡方
庄屋　桂　東吾
慎吾方

安政三年名主吉沢周平次
安政四年名主吉沢九平太
安政五年加名主今井勘吾
加名主　今井勘吾

新津組
天ケ沢新田
名主　勘吾

其方儀鎌倉新田名主加判申付置候処此度願之通差免、元年来之内相勤候に付被下置

午二月　安政五年）

褒賞を受けている
安政六年名主斎藤嘉太郎
郷村帳によれば庄瀬村から転任名主で、地元町長第一号の故斎藤一氏の祖父に当る。明治元年九月三日に死亡した。

桜の名所にこのかげの人

一番町の 渡辺平七さん

こゝ数年、雁巻の桜が一躍クローズアップされてきました。

小規模ながらも町の名所として、春の行楽に人々から親しまれております。今年も商工会の花見を中心に、昼夜連日の賑わいが続きました。

ところで、この名所もいつごろから誰の手によって培われ育てられてきたのか、わからない人が大部分と思います。

柏大治氏編「明治から百年、小須戸町の歩み」をひもといてみますと、次のような記事がのっています。

時は昭和二十七年、故長谷川鉄太郎さんの町長時代です。

「五月 雁巻の桜植樹をなす 講和条約（サンフランシスコ条約）締結記念並に観光資源の一端として、雁巻より下興野に至る間まで。」

これによりますと、敗戦日本の再出発と町将来の大発展を祈る大きな記念事業だったわけです。

しかし、これは町を挙げてのものではなく、なんでも先年物故された横町の鈴木清三郎（くもで屋さんなどが中心になって町長・町会議員等に呼びかけ、その寄附金によって植樹されたと伝えられています。それだけにはっきりした管理の責任者もなく、せっかくの苗木も順調な成長が危ぶまれる状態が続きました。

その後、見るに見かねた一番町の渡辺平七さんが、なんとかしたい思って季節季節に出かけては一人黙々と整枝、剪定、肥培等の手入れを続けられ、実に十数年にわたっているのであります。

近年は商工会から多少の費用も出て、渡辺さんに同調する奉仕者もぽつぽつと加わってきた由。それに今後の管理も、正式に町の観光協会が負うことになりました。

今日、この美しい桜並木の下に立つとき、当初の鈴木さんたちをはじめ長年にわたって、誰とも知られず一人奉仕を続けてこられた渡辺さんに対し、ただただ頭のさがる思いがいたします。

しかも本紙のインタービューに対し渡辺さんは「とんでもない。みんな皆さんのお力です。」と一言も話されようとされません。

事情を知る数人の方々のお話しをとりまとめ、ここにご紹介する次第であります。

（文責 編集部）

さあ！バレーボールをしましょう

土曜日夜 町体で

「さあ元気でゆこう」このかけ声で始まるママさんバレー。

土曜夜七時半から九時半まで、歌ありフォークダンスあり、練習ありの楽しいバレーが始まる。

約四十名のママさんが子どもといっしょの楽しい時間である。

婦人の体力向上と仲間作りを目的で、昨年五月からスタートし、毎週こんな練習をやってきた。

開設の当時はボールのおっかけ。ここで始まったママさん達、今では実に体が動くようになった。レシーブ・トス・スパイクと実にうまくなった。

昨年は優勝一回・二位二回・三位一回と、すばらしい活躍をしました。

あるママさんは言う。

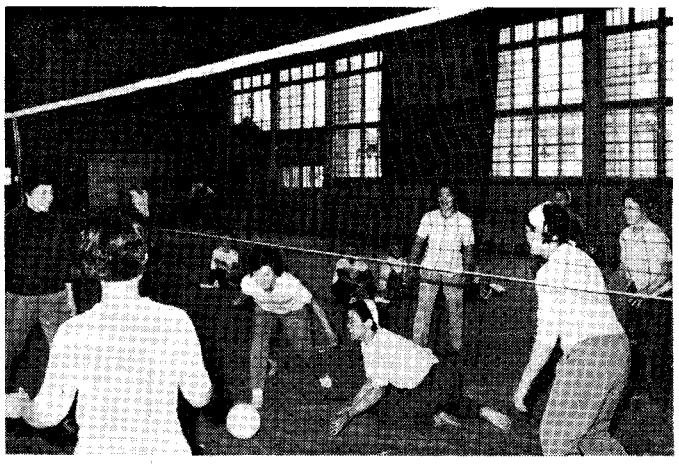
「私達は技術はよそに負けるけど、ただ、よそに負けないものはチームワークである」と頑張るママさん達、すばらしいチームワークである。またほかのママさんは言う。

「私達は若くなった、家庭が明るくなった」と話す。

土曜日が待ち遠しくてたまらないと話すママさん。今年もみんなで「和」を第一に考えて、みんなで協力しあって頑張ってゆこうとはりきっている。

もっともっと多数の人達が参加をしていただきたいと思います。

－小須戸分館－



← 元気でやっているママさん ←

一部屋一台時代のホームテレホン

町には昨年ホームテレホンが五セット取付けられたが極めて好評を得ている。その特長は

一、電話線一本で四台まで使えるので、店舗と住居がくっついているお宅にピッタリ。

二、呼び出し音は軽快なチャイムで、ロンロンという明るいソフトな音。自由に調節できるので便利だと好評。

三、かかってきた電話を他の部屋に回すのはボンボンでOK。

四、部屋どうしの連絡は内線ボタンを押して、「おはよう、お寝すみ」

五、一斉呼出しボタンを押せばミニスピーカが働く。

六、通話中に家族も入れて相談したいときは、割込スイッチを使えばOK。

※あなたのお店にもいかがですか？

お申込みは電話二六〇〇番へどうぞ

＝小須戸電報電話局＝

山火事にご注意

火の用心

小須戸町消防団

移動交通事故相談所

あらゆる団体、住民の皆さんが朝起きて、夜ねむりにつくまで交通戦争とたたかっております。

なかには、不幸にして交通事故の犠牲者となり一生取りかえしのつかない不具者となり、或は死亡するなどの事故に遭遇して、一家悲嘆にくれておられる家庭も多くあります。

交通事故には被害者は勿論犠牲者となりますが、加害者も物心両面の犠牲者とならなければなりません。

そこで、事故後の双方の解決方法のなかで、加害者としての誠意のない仕打ち、或は被害者から不当と思われる賠償請求をされて、困っているお方はありませんか。

このような事情でお困りの方は「移動交通事故相談所」に相談して下さい。（役場・町民生活課交通係）

係では希望者があると県に係官を要請し、相談日を定め、関係者に日時と場所を連絡します。

この場合、個人の秘密は守られ、経費は一切不要であります。

悪質な交通示談屋などの話しにのらないよう、注意いたしましょう。

皇居奉仕団体を募集!!

小須戸町至誠会では、十一月中旬に皇居奉仕団を編成し、ご構内の清掃奉仕に参加してもらう計画です。経費については つぎのとおりです。

記

期日 十一月中旬ころ（決まり次第知らせます）

日程 四泊五日

経費 二三、五〇〇円

申込金三、〇〇〇円

申込 六月九日までに公民館内事務局へ

人員 一〇〇名 定員になりしだい〆切ります。

五月十日現在で六十九名の申込みがあります。

なお細部については事務局へおたずねください。

天狗大会終わる

第二十二回町民魚つり大会は、さる四月二十二日、西蒲鎧湖橋附近で実施された。約四十名ちかい大天狗が集まったが、

入賞はつぎのとおり。

大糧賞一等 竹井 照雄

大物賞一等 久保 光正

大糧賞二等 佐野吉次郎

三等 美濃 英雄 / 久保 光正

四等 高橋 昭吾 / 高井 清吉 / 久保 進

五等 狩野 保歳 / 渡辺 義雄 / 古寺 春郎 / 今井 藤吾 / 夏川 正行 / 大竹 虎一 / 押見久治郎 / 川瀬 次雄 / 加藤 金二

特別賞

第12回児童生徒作文コンクール作品募集

－郵政省簡易保険－

次代をになう小・中学生に対し、簡易保険のもつ相互扶助の精神を普及し、あわせて社会教育および作文教育に貢献する目的で行なわれてきた簡保作文コンクールは、ことしで第十二回目となります。

今年は、簡保資金運用再開十周年にあたりますので、文部省・NHK・都道府県等の協力を得て作品の募集を行います。

一、応募資格

小学五・六年、中学一・三年生

二、課題

(1)「簡易保険」または これと関連するもの

(2) 自由題

三、原稿枚数

四百字づめ原稿用紙五枚以内。

作品には郵便局にそなえてある応募票に文題・氏名（ふりがな）住所・学校名・学年を記入する。

四、応募受付

もよりの郵便局へ持参

五、しめきり

四十八年六月三十日

六、入選点数など

(1) 郵政局長賞など地方コンクール五二四点

(2) 郵政大臣賞など中央コンクール一〇九点

(3) 優秀校に学校賞 二二校

(4) 応募者全員に参加賞

入選発表

地方コンクール八月

中央コンクール十月

（小須戸郵便局）

こどもクイズ おわかりですか？

つぎのうち正しいものの番号をはがきに書いて公民館へおくってください。正解者の中から抽せんで五名に賞品をさし上げます。

※しめきり 五月三十日

問題

1 町の人口は一万六百人位です。

2 町の人口は約一万六千人です。

3 町の面積は一七、二〇平方粁です。

4 町の面積は一七二、二〇平方粁です。

5 昨年一年間の町の交通事故発生件数は九二件です。

6 昨年一年間の町の交通事故発生件数は九[illegible]件です。

前回の正解と当選者

正解は二・四・六でした

当選者は次の通り。

一番町 渡辺 修

新保 間野英俊

水田 鈴木幸代

横川浜 小柳浄子

五番町 渡辺裕子

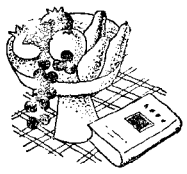
前号記事についておわび

前号二面記事「胸をうたれる隣人愛」について当の金沢啓吉さんから次のようなお申し入れがありました。「隣家のYさんが中風で、ばったり倒れてしまわれたとあるがそれは全くまちがいで、ご当人は中風ではなく、元気でおられる」ということであります。

編集部の確認ミスで関係者に多大なごめいわくをおかけしたことを深くおわび申しあげ、ここに訂正いたします。

（編集部）

書図入購



◇宮本百合子集 宮本百合子

◇もう一つの別の広場・番外 TBS

◇マフィオーゾ ピーター マッカテーノン

◇室生犀星集 室生 犀星

◇残像 三浦 綾子

◇華麗なる一族（上・中） 山崎 豊子

◇いっさい夢にござ候 角田 房子

◇女の長風呂 田辺 聖子

◇果てしない影 黒岩 重吾

◇高校放浪記 ④ 稲田 耕三

◇香港の水 木本 正次

◇風を見た人（全巻） 水上 勉

◇女極道まらやん 灰山 信

寄贈図書

◇十二支物語 諸橋 轍次

◇日本史探訪（一集～六集） 海音寺潮五郎他

矢部滕三郎氏より寄贈

◇越前竹人形 水上 勉

高橋孝廿氏より寄贈

春のうた

我妻 清作

寒暖の戻り幾度繰り返し北国の春立ちにけるかも

ひたひたと岸辺に寄せるさざ波がひねもす春の光りをはじく

北国の天もやうやく日直りて春めく風の吹き初めにけり

春立つ

野も山も黒ずみ初めぬ北国に春の光はやはらかに降る

さはやかに風吹き渡る大沢の渓間に白き木蓮の花

変りなき生活の道を今日もまた楽なる日を働きて待つ

四月句会報

小須戸町俳句同好会

音たてて対岸の野火走り去る 香月

春暁や月うす〳〵と眉の上 太浪

父の忌を了えし安堵や暖かし 良遊

苗床を覗いて行きし知らぬ人 虚秋

手の土筆萎えて泣く子の戻りけり 芳人

春泥に子等の登校村境 静花

ものの芽や三日見ぬ間のほぐれかな 梧桐

句碑立てゝ金婚の春祝いけり 松山

日曜がはっきり多忙花間近か 樫男

蕗味噌にお茶替りとてコップ酒 喜雨

灌ぐ右手拝む左手や甘茶仏 碧水

駐在が近くに移転木の茅時 ひさ

枝切れば樹液したたるぶどう園 四山